

# 【週刊タバコの正体】

Vol.28 第13話~第15話

2014/07 和歌山工業高校 奥田恭久

## ■Vol. 28

### (No. 391) 第13話 喫煙者は不利

—喫煙者は不利な世の中...

7月になりました。3年生の皆さんにとっては、そろそろ卒業後の進路を決める時期に入りました。というのも企業からの求人票の受付が開始されるからです。求人票とは、来年の4月に採用を予定している人数や仕事の内容、それに給料などの待遇が記載されている書類の事で、和工の卒業生を採用したいと考えている会社が、求人票を本校に送ってきてくれるわけです。

就職を希望している3年生は多くの求人票をよく読み、その中から自分が就職したいと思う会社を選ぶわけですが、「この会社にいきたい」と考えても、入社するには会社の採用試験に合格しなければなりません。その会社の色々な基準や条件を満たしていなければ採用してもらえませんからね。

さてじつは、そんな採用条件に「タバコを吸うか、吸わないか」を組み入れている企業が増えているのです。その理由を考えてみましょう。

### (No. 392) 第14話 タバコは売れる

—コンビニの売上の1/4はタバコが占めている...

タバコは有害で、吸わない方が身のためだと考えている人が多くなり、喫煙率は低下し続けています。君たちのように最初からタバコを吸い始めない人が増えているのに加え、「禁煙外来」と呼ばれる禁煙治療を受けられる病院で禁煙する人も着実に増加しているからです。

ところが、一方でコンビニでは左下の写真のようにレジの一番目立つところでタバコを販売しています。まるでタバコが目玉商品のような扱いです。人々の健康を害し命さえも縮めるような商品を、どうしてこのような目に付くところで大きく販売しているのでしょうか。

じつは、右下のグラフを見て下さい。なんとタバコはコンビニの主力商品なのです。売上の四分の一がタバコだとは驚きですが、そんなに売れるのだから売り場面積が大きくなるのも理解できます。つまり「タバコは売れる商品だから、目立つところで販売している」という事なのでしょう。

### (No. 393) 第15話 日本はタバコに依存している

—タバコが売れ続けることを前提とした社会の仕組み

タバコは有害なのに“売れる商品”です。前回紹介したように、コンビニの売り上げの26%も占めているのですから、タバコなしでは経営が苦しくなるかもしれません。日本たばこ協会の発表によると昨年(平成25年度)1年間の全国の販売本数は1969億本だったそうです。1箱20本だとすると約100億箱です。これを365日で割って1日当たりになると、毎日約2700万箱も売れている訳です。

## Serial number 392 第14話 週刊 タバコの正体

タバコは有害で、吸わない方が身のためだと考えている人が多くなり、喫煙率は低下し続けています。君たちのように最初からタバコを吸い始めない人が増えているのに加え、「禁煙外来」と呼ばれる禁煙治療を受けられる病院で禁煙する人も着実に増加しているからです。

ところが、一方でコンビニでは左下の写真のようにレジの一番目立つところでタバコを販売しています。まるでタバコが目玉商品のような扱いです。人々の健康を害し命さえも縮めるような商品を、どうしてこのような目に付くところで大きく販売しているのでしょうか。

じつは、右下のグラフを見て下さい。なんとタバコはコンビニの主力商品なのです。売上の四分の一がタバコだとは驚きですが、そんなに売れるのだから売り場面積が大きくなるのも理解できます。つまり「タバコは売れる商品だから、目立つところで販売している」という事なのでしょう。

タバコを吸うのは、ほとんどがニコチン依存症となっている人たちです。ニコチン依存症になると、常に手元にタバコが必要で、そんな人々にとって、24時間営業のコンビニでタバコが買えるのは便利でありがたい状況なのかもしれません。

でも、人々の健康を尊重すれば、タバコは売れない方がいいのです。君たちを含め若い世代がタバコを吸い始めなければ、いつか「タバコなんか売れない」と言われる時代がくるはずです。

産案デザイン科 奥田 恭久

商品群別売上高構成比率推移 (連結・チェーン全店、ローソン)



## Serial number 393 第15話 週刊 タバコの正体

タバコは有害なのに“売れる商品”です。前回紹介したように、コンビニの売上の26%も占めているのですから、タバコなしでは経営が苦しくなるかもしれません。日本たばこ協会の発表によると昨年(平成25年度)1年間の全国の販売本数は1969億本だったそうです。1箱20本だとすると約100億箱です。これを365日で割って1日当たりになると、毎日約2700万箱も売れている訳です。



さて、上の写真はオーストラリアのタバコです。タバコは売れない方がいい事は世界の常識なので、オーストラリアでは、タバコに健康に関する警告が、びくびく見えます。日本たばこ協会の発表によると昨年(平成25年度)1年間の全国の販売本数は1969億本だったそうです。1箱20本だとすると約100億箱です。これを365日で割って1日当たりになると、毎日約2700万箱も売れている訳です。

一方、左下の図は日本のタバコのデザインの様式で、実物は右下の写真のとおりです。しかも一箱410円です。一旦してタバコは有害だとはとても思えません。タバコは“売れる商品”だから、これが良いのでしょうか。

世界の潮流から見れば、「日本は国全体が、タバコに依存している」と思われていないでしょうか。

産案デザイン科 奥田 恭久



毎週火曜日発行



URL: [http://www.jascs.jp/truth\\_of\\_tabacco/truth\\_of\\_tabacco\\_2011.html](http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_2011.html)

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。  
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。

